

アイリスLetter

保護者の皆様へ



2017年9月30日発行
第5号
広島女学院中学高等学校

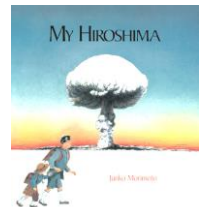
本校卒業生で絵本作家の森本順子さんが、9月21日に亡くなりました。当日の夕方のニュースで報道されましたのでお聞きになった方も多いと思います。森本さんはオーストラリア在住でしたが、絵本作家として現地ではよく知られた方でした。『つるの恩返し (The White Crane)』『いっすんぼうし (The Inch Boy)』『わらしべ長者 (A Piece of Straw)』『なめとこ山の熊 (Kojuro and the Bears)』など日本の民話や童話を英語絵本として創作し、これらの絵本は“Children’s Book of the Year”にノミネートされ、それぞれ3位、2位、2位、1位を獲得し一躍注目されるようになりました。

そうした中、森本さんがテーマとして心で温めておられたのは、13歳の時、広島女学校（現広島女学院）在学時に多くの友を一瞬にして亡くし、また戦後長きにわたり原爆症と戦いながら逝った友をもった、原爆被爆の経験でした。後に『MY HIROSHIMA』としてこの絵本は1987年に世に出ますが、民話などの絵本作家として知られていた森本さんに対しての、一般から期待されていたイメージとは違ったデリケートなテーマに、出版社も戸惑い、出版までには紆余曲折があったようです。

出版後、上記の賞にはノミネートすらされなかったそうですが、これについて絵本作家モーリス・サグスピー氏は、「この絵本がノミネートされないのは国の恥である。」と書いたほど、本への評価は高く、その後いくつもの言語に翻訳され（1988年には日本語版も出版）、オーストラリアのほぼ全ての小学校に配布されたとのこと。また森本さんもご自身の体験をもとに豪州各地の学校を訪れて講演を行い、平和への思いを伝えて来られました。

高校校地の西南角、城南通りの電車通りに面した一角にある、NPOと女学院が2004年8月6日に設置した「原爆絵碑（第5号）」には、『MY HIROSHIMA』の絵が使われており、ご覧になった方も多いと思います。本校がこの本を中学生の英語教材として採用したいと申し出た際のことについて、森本さんは次のように書いておられます。「2004年の春。久々に母校を訪れた時、「この絵本を、平和と英語の教育に、是非、生徒に使わせたい。そして、ひとりびとりが、この絵本を持って、卒業して行ってほしい…」この言葉に私は強く打たれた。その先生をはじめとする、中高英語科の先生方の信念と熱意、実行力、母校のご理解、お力添えをもとに、この復刻版が実現されたことに敬意と深甚の感謝をささげるものである。」

絵本『MY HIROSHIMA』は、現在中3の教材として授業で使用していますが、同時に国内外から来られる多くのゲストの方々にも記念に差し上げています。ヒロシマでの被爆の出来事を伝える体験者の証として、このすばらしい絵本を残してくださった森本順子さんに心から感謝するとともに、作者の平和への思いがこの本を通して、生徒をはじめとして多くの方々に永く伝え続けられるよう祈ります。



さて、文化祭を11月3日に控え、PTAの皆様にはバザー等の準備に忙しくなる日々を迎えておりますが、生徒達も発表に向けて練習に熱が入ってきています。皆で力を合わせて良い文化祭にしていきたいと思っておりますので、ご多忙な中ではございますが、ご協力よろしくお願いたします。

聖書のことば 「平和を尋ね求め、追い求めよ。」

旧約聖書詩篇34編15節

(校長)

8・6 平和祈念式・平和記念礼拝

生徒・教職員350余名が原爆の犠牲となった体験は、本校の平和教育の原点となっています。

8月6日午前10時より、ご遺族・関係者の方をお迎えして平和祈念式が行われました。高2のT・Yさんによる追悼のことば、6月の平和を祈る週に中学全校生徒が折った千羽鶴の献納、高校茶道部の献茶、中学YWCA部のハンドベル演奏などがあり、最後に中学校地東側の原爆慰霊碑に参列者が献花をしました。



同日午後1時30分からは、中1、中3、高2の生徒が出席し、多くの来訪者の方々と共に、平和記念礼拝

を捧げました。

講師の栗原明子さんは、1944年に広島女学院高等女学校（現中高）を卒業し、広島女学院専門学校（現大学）に入学、向洋にある東洋工業に学徒動員中に被爆。翌日、大手町にあった自宅に向かう途中ですさまじい情景を目にしました。自宅は焼失しており、家族と会えないまま、広島文理科大（現広島大）近くで知人に声をかけられ、そこで「南方特別留学生」たちと出会いました。

太平洋戦争中、日本は植民地下にあった東南アジア諸国から、日本の役に立つ人材を育てようと有力者の子弟を日本に留学させていました。広島で被爆した留学生たちと、栗原さんは1週間、助け合って過ごしました。自らも負傷しながら、日本を恨むでもなく、被爆者たちを助け、行方不明の父を捜す自分を励ましてくれた、極限の中での彼らの思いやりと笑顔に救われたと言います。マレーシア王室出身のサイド・オマールさんは、整った目鼻立ちの優しい青年でしたが、ようやく帰国できると東京に

向かう途中、原爆症のため亡くなられたと後で知りました。帰国したペンギラン・ユソフさんは、後にブルネイ初代首相になりました。

栗原さんは、家の焼け跡で疎開していた母と再会、かわいがってくれた父は県病院で梁の下敷きになって亡くなったと人から伝え聞きました。原爆直後、市内で過ごした自分も原爆症の症状が現れましたが、何とか回復。最後に「戦争は人殺し以外の何物でもない。いつも犠牲になるのは民間人の子どもや大人たちです。若い皆さんにお願いしたいことは、平和を創り、平和を保つこと。どんなつらいことがあっても必ず乗り越えられると信じて、人生をあきらめず生きて行ってほしいと思います。」と語られました。



（宗教教育委員会）

中2 チャレンジキャンプ

8回目を迎えた中2チャレンジキャンプが、今年も7月24日（月）～26日（水）の2泊3日、恐羅漢牛小屋高原エコロジーキャンプ場を中心に行われました。

2日目の午後から夜にかけ激しい雷雨に見舞われ、キャンプファイヤーはできませんでしたが、それ以外の行事はすべて行うことができました。

特に2日目の登山は広島で一番高い恐羅漢山に挑戦しました。登り始めに急勾配のゲレンデがあり、ここで体力をだいぶ奪われましたが、高校生リーダーの励ましにより、全ての班が頂上に到達しました。

また初日、2日目の夜は飯盒炊さんでした。中2の生徒は4月の遠足で薪割りや火起こしなどの練習をして臨みましたが、なかなかうまくいかないところもあり、ここでも高校生リーダーがさりげないアドバイスをしてくれました。

日頃の生活ではほんの小さな虫を見ただけでも大騒ぎする中2生徒ですが、2日目ともなると虫にもなれ、中にはクワガタやヒキガエルを捕まえる生徒も出てきました。

細かなスケジュールはほとんど決めず、班ごとに適当な時間になったらご飯を作り、後片付けをするという中、生徒それぞれが、今、自分が何をすべきなのかを考えて行動できるようになったと思います。

キャンプから学校に戻り、ホールで解散式をしたとき、お世話になった高校生リーダーとの名残りを惜しみ、涙を流す中2生徒の姿がとても印象的でした。その姿を見ると、高校生リーダーとの3日間がとても充実していたことが推測できます。

たった2泊3日だったかもしれませんが、中2の生徒にとっては大きく成長するきっかけを与えられた3日だったと思います。



(チャレンジキャンプ委員会)

おさんぽ女学院

7月17日(月・海の日)に、小学生対象オープンスクール「おさんぽ☆女学院」を開催しました。今年からすべてのプログラムを二部制にして、少しでも多くのお客様

にたくさんの体験をしていただくようにしました。「ホールでまるごと女学院(マンドリン部の演奏・生徒による学校紹介・入試解説)」や、「授業体験(英語・数学・社会・理科)」、「クラブ体験(新体操・バスケットボール・卓球・剣道・吹奏楽)」、「制服試着コーナー」、「SGH課外活動・行事紹介」、「食堂体験」、「女学院ツアー」、「クイズラリー」などのプログラムを準備しましたが、どのプログラムも事前の予約がすぐ埋まってしまうほどの大盛況で、当日の来場者は小学生女子だけで700人を超えました。大変ありがたいことです。

また、今回もたくさんの生徒に、各プログラムの企画・運営・準備に携わってもらいました。いやな顔一つせず、「どうやったら小学生に楽しんでもらえるか」と真剣に考え、実行してくれました。イベント後に小学生の保護者の方に行ったアンケートでは、「女学院の生徒さんの挨拶や笑顔がさわやかで、雰囲気がとてもよい学校ということがわかった」、「生徒さんがクラブ体験や授業体験でわかりやすく教えてくれたので、娘が女学院に強くあこがれるようになった」など、女学院生の姿を高く評価してくださる回答をたくさんいただきました。女学院生の姿をお伝えすることが本当の広報活動であると、教員一同再確認されました。



(広報部)

学校教育セミナーのご案内

本年度、小学生保護者の皆様、在校生の保護者の皆様を対象に「これからの学校教育を考えるセミナー」シリーズを開催しております。これまで、ベネッセコーポレーションの武吉麻衣さん、駿台予備学校の豊田基行先生、灘中学校・高等学校の木村達哉先生に講演をしていただきました。第4回はWFP国連世界食糧計画 日本事務所代表の焼家直絵さんをお招きし、講演をしていただきます。

タイトルは「国際社会における女性のキャリア形成 ～広島女学院の卒業生として～」、日程は10月28日（土）11：00～12：00です。聴講ご希望の方は本校HPよりお申込み下さい。

（広報部）



I. 夏期海外生活体験学習

7月26日（水）～8月11日（金）まで、中3生徒18名は、オーストラリア・メルボルン郊外に位置するキルビントングラマースクールでのホームステイ研修に参加しました。

到着した当初は英語しか通じない環境や生活習慣の違いに戸惑っていましたが、徐々に発言や質問をすすんでできるようになりました。また、日本語や体育、芸術など様々な授業に参加させていただき、グループやペアでの活動をしながら現地の生徒達と交流しました。

8月4日には”Peace Day”として、広島や平和に関するプレゼンテーションを行いました。生徒達は日本で準備してきたパワ

ーポイントをみせながら、原爆や広島復興、女学院での平和活動、語り部さん、佐々木貞子さんについて英語で説明をしました。キルビントン生達はとても真剣に聞いてくださいました。その後、ともに輪になって祈りを捧げ、平和を祈りながら折り鶴を折りました。

2週間というわずかな時間でしたが、生徒達は英語力の向上もさることながら、自らすすんで行動することの大切さ、異文化におけるコミュニケーションの取り方など、研修を通してたくさんを学びました。



（グローバル教育推進部）

II. Peace Forum

8月6日（日）午後、台風の影響を考慮し予定を前倒ししてPeace Forumを開催しました。このフォーラムは9年前、ハワイのプナホウ高校（オバマ前アメリカ大統領の出身校）と本校との小さな交流会としてスタートし、今年は過去最高の規模となり150余名もの参加者をお迎えしました。プナホウ高校はもちろんのこと、遠方から沖縄尚学、玉川聖学院、関西創価、長崎東、県内からも盈進、武田高校の生徒・先生方にご参加いただきました。

各校の取り組みを紹介し合うだけでなく、例年核軍縮に関わるトピックを選び、事前学習を行った上で、当日ディスカッションを通して考えを深められるようなプログラ

ムを実施しています。今回は「Power to the People」と題し、市民社会とNGOをテーマとして、われわれ市民に何ができるかを順序立てて考えました。各校が事前に調査するNGOを選定し、ポスターにまとめ、当日の発表に臨みました。参加者は自由に各校の発表を見て回り、投票により全26のうち5つのNGOを選び、それらに具体的にどういった行動を起こすよう提言できるか、高校生らしい視点で議論を行っていました。まとまった行動計画は今後実行に移され、また来年のフォーラムで経過報告がなされる予定です。その日限りではなく、実際に思いが紡がれ、世界平和実現のため少しでも良い影響をもたらすことができればと願うばかりです。

プナホウ高校の素晴らしいプレゼンテーションで幕を開けた今回のフォーラムには、急遽、CTBT（包括的核実験禁止条約）に基づき核実験の監視を行う国際機関CTBTOの準備委員会からゼルゴ事務局長がお越しくださり、メッセージをいただきました。

以下メッセージより抜粋。「エスカレートする軍事競争により緊迫する世界情勢を憂えています。この状況を打破するには被爆の事実を真に知る日本の力が肝要であり、ヒロシマ・ナガサキを知る若者に、自分を、そして自分の若さを信じ、行動を起こしてほしい。」

(グローバル教育推進部)

Ⅲ. 模擬国連

夏休み、2つの模擬国連に参加しました。7月8日、19日～20日に実施されたMUN OSAKA(模擬国連大阪)・8名参加と、8月7日～8日の高校教育模擬国連・11名参加です。MUN OSAKAは英語で議論することを中心にした大会で、議題は持続可能な社会のための開発(SDGs)でした。高校教育模擬国連は核軍縮で、中学生の部ができた初めての大会でした。他校生徒のアグレッシブさ、知識の豊富さに圧倒されていた感はありません

したが、ベストを尽くしてきたと思います。もっとこうすればよかった、と反省や後悔を抱いた生徒もいたようです。こういう気持ちこそが、次の成長をもたらすと思います。



(グローバル教育推進部)

Ⅳ. 核廃絶 夏の街頭署名活動

7月30日(日)に「核廃絶!ヒロシマ・中高生による署名キャンペーン」の結団式を行いました。結団式では、広島平和文化センターや平和首長会議・広島市市民局平和推進課のご協力をいただき、松井一實広島市長、小溝泰義広島平和文化センター理事長、湊晶子院長に激励のお言葉をいただいて、夏の署名活動を始めました。署名活動は、7月29日、30日、8月2日、4日、5日に、元安橋・原爆ドーム周辺・本通りパルコ前・八丁堀福屋前で行い、本校生徒をはじめ、市内からは修道高校・ノートルダム清心高校・広島城北高校・広島皆実高校・広島文教女子大学附属高校・崇徳高校、県内からは盈進中高、県外からは沖縄尚学高校・おかやま山陽中学・神戸国際大学附属高校・プール学院高校・松蔭中高、ハワイからプナホウ高校が参加し、累計で約500名の中高生が参加してくれました。多くの方のご協力に感謝します。

交流会では、7月19日(水)に広島学習で来校した女子学院の高校1年生が来校し平和について互いに話し合い、交流を深めました。また7月27日(木)～28日(金)には神戸女学院・金城学院・広島女学院の交流会を行いました。1日目には開会礼拝後、3校からのプレゼンテーションとディスカッションを行い、2日目は、平和公園

で慰霊碑めぐり、原爆ドーム前と元安橋で街頭署名活動を行い、広島平和記念資料館の見学を行って閉会となりました。この交流会も2年目となり、3校のそれぞれの特徴が活かされた実りのある交流会となりました。その他、8月6日には朝から原爆死没者慰霊式並びに平和記念式典に参加しました。

署名実行委員の生徒も忙しい夏を通してしっかりと成長しています。多く方に署名活動が支えられていることに感謝です。

(署名実行委員会)

V. 碑巡り案内

今年度も、夏休みに碑めぐりを行いました。今年、香蘭女学校、関西創価高校、敬和学園高校、共愛学園、玉川聖学院、ハワイプナホウ高校、大阪YMCA専門学校など11の学校・団体に平和公園を案内しました。来校者は延べ250人あまりで、アメリカや中東の方もおられます。例年と異なるのは、大学生・社会人となったOGたちに、事前指導していただいたことです。女学院生時代、碑めぐりに熱意をもって取り組んできた先輩たちの思いと技を教えてください、充実



した活動となりました。9月26日には、同じランバスリーグの啓明学院中学から修学旅行生を迎え、碑めぐりを行います。

(碑巡り担当)



保健室だより (5)

気温差の激しい季節です。

かぜなどをひかないように気をつけたいものですね。

うがい、手洗い、休養も上手にとりながら過ごしましょう

(保健室)

心の健康 (5)

夏の暑さからくる疲れが尾を引いて、9月には「やる気が出ない」「すぐに腹が立つ」などの訴えをよく聞きました。

その9月も去り、今は10月。実りの秋です。心にも実りをもたらす時です。このいい時期に家族で落ち着いた家庭生活を楽しむことはとても大切です。

たとえば、1冊の本を家族全員が読んで話し合ってみたり、一家で草花に触れて楽しんだりするなど、我が家風にプランを立てて実行してみたいはいかがでしょうか？

子どもが上手に親離れをし自立していくためには、また親も上手に子離れするには、このような「親子の時間」が大切です。

(カウンセラー)

生徒の活躍

《中学》

◇中学新体操部

*第38回中国中学校新体操選手権大会

団体：4位

*第65回広島市中学校総合体育大会
新体操競技の部

団体：Aチーム 優勝 ⇒ 県大会出場
Bチーム 2位

◇中学合唱部

*第84回NHK全国学校音楽コンクール
広島県コンクール 銀賞

*第56回広島県合唱コンクール 銀賞

*第56回中国合唱コンクール 銀賞

◇個人の活躍

*第57回広島県中学校水泳競技選手権大会

G・R (3-4)
100m・200m自由形 決勝進出
K・Y (2-2)
400m自由形 4位
200mバタフライ 8位

*第65回広島市中学校総合体育大会水泳競技の部

G・R (3-4)
100m自由形 7位
200m自由形 3位
K・Y (2-2)
400m自由形 4位
200mバタフライ 3位
⇒ 県総体出場

*広島県中学校総合体育大会(競泳)

K・Y (2-2)
400m自由形 4位

*第41回ピティナ・ピアノコンペティション
地区本選・第二次予選入選

K・M (2-3)

《高校》

◇高校新体操部

*広島地区高等学校秋季新体操競技大会

個人：一部総合
Y・M (2-D) 1位
M・K (1-A) 2位
T・H (1-C) 3位
：一部種目別フープ
T・H (1-C) 2位
M・K (1-A) 3位
：一部種目別ボール
Y・M (2-D) 2位
M・K (1-A) 3位
：二部総合
W・S (2-E) 1位
K・H (1-D) 4位
T・A (1-C) 5位
：二部種目別フープ
// ボール
W・S (2-E) 1位

◇高校水泳部

*広島地区高等学校秋季水泳競技大会

団体：400mフリーリレー
400mメドレーリレー
⇒ 県大会出場

個人：T・M (2-D)
200m個人メドレー 1位
400m個人メドレー 2位
S・Y (1-A)
200m背泳ぎ 7位
S・Y (1-A) 100m背泳ぎ
H・C (1-A) 100m平泳ぎ
H・N (1-D) リレー選手
⇒ 以上4名、上記種目で県大会出場

◇高校音楽部

*第84回NHK学校音楽コンクール

広島県コンクール 銅賞

*第56回広島県合唱コンクール 金賞

*第56回中国合唱コンクール 金賞

◇個人の活躍

*第3回中高生のためのかほく科学研究
プレゼンテーション大会

S・M (3-D) 最優秀賞

*広島県高校生韓国語スピーチコンテスト

A・A (2-B) 銅賞(3位)

M・M (2-C) 奨励賞

*第34回中国ユース音楽コンクール
ピアノ部門

N・Y (2-B) 最優秀賞

*日本生物学オリンピック2017

H・Y (2-C) 優良賞

*全国珠算教育連盟主催

中国五県珠算選手権大会 高校一般の部
N・A (1-D)
個人総合競技 3位
読上算競技 3位
フラッシュ暗算 3位

《中高》

◇中高マンドリン部

*全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール
優秀賞
朝日新聞社賞 (第2位)

教職員の動向

○保健体育科の中元深雪先生が9月11日より産休に入られました。

○4名の新任の先生がいらっしゃいます。

《講師》

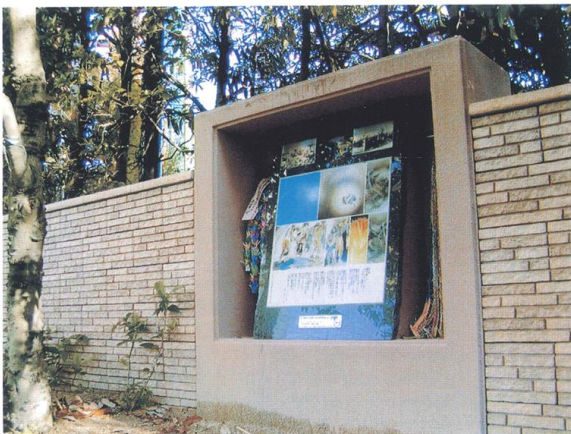
向井 陽子先生 (美術)
大西 知春先生 (美術)
香本 奈緒美先生 (保体)
林田 真穂先生 (保体)

今月の聖句

わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです。

(コリントの信徒への手紙一 3章9節)

(聖書科Y. I)



原爆絵碑
2004年8月6日建立

「原爆絵碑 (第5号)」(巻頭言『MY HIROSHIMA』より)

10月行事予定

1	日	創立記念日 冬服更衣
2	月	
3	火	高2修学旅行 7限 高1PTS (選択科目)
4	水	中3研修旅行
5	木	中1'パイルデ'イキャンプ(4限~6限)
6	金	中1、2、高1、3遠足
7	土	振替休日(9月30日(土)) 高3ベネッセ駿台記述模試 英語検定(学校実施)
8	日	
9	月	体育の日 秋学フェスタ(広島)
10	火	7限 高2PTS (選択科目)
11	水	
12	木	渋谷教育学園渋谷高校広島研修
13	金	
14	土	保護者対象学校説明会
15	日	
16	月	
17	火	中間テスト(高2・3) (中1・2・3、高1)
18	水	1限8:55~ 15分休憩
19	木	1限8:55~ 15分休憩
20	金	1限8:55~ 15分休憩
21	土	振替休日(10月14日(土))
22	日	高1駿台全国模試(希望者)
23	月	
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	中間テスト素点確認 高3ベネッセ駿台マーク模試(午後) 学校教育セミナー
29	日	
30	月	高1・2進研模試(5限まで) 6限 高1・2LHR(高1・2は6限で終了) 高3ベネッセ駿台マーク模試(全日) Ⓜ 1~4限 学力推移調査 5~6限 授業
31	火	